

## 令和4年(2022年)福島県沖地震支援 最終報告書



3月16日23時36分に発生した福島県沖を震源とする地震により、宮城県・福島県内で最大震度6強が観測され甚大な被害をもたらしました。道路の崩壊や断水、停電が多発し、交通機関の運休、高速道路や国道の通行止めも相次いで発生しました。

福島県南相馬市では7月25日時点で罹災申請受付件数は4,647件(内訳 住家3,515件、非住家1,132件)に及ぶ被害がありました。特に、南相馬市鹿島区では住家のみで1,707件の罹災申請があり、3,710世帯(6月30日時点)の住む鹿島区では約半数の割合で被災していることが分かります。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、南相馬市の避難所は3月20日までにすべて閉鎖され、その後の被災者の生活状況は把握しづらいことが現地関係者から指摘されていました。2011年3月11日東日本大震災、2021年2月13日福島県沖地震、2022年3月16日福島県沖地震と続いており、今回、被害の大きかった鹿島区では3度の地震の中で一番被害が大きかったとの声も上がりました。東日本大震災より11年が経ち、復興へ歩みを進めている最中の今回の被災は、精神的にも経済的にも大きな痛手となってしまいました。

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会(以下シャンティ)は、緊急人道支援に取り組むため、2022年3月24日より福島県南相馬市にスタッフを派遣し調査を開始しました。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、社会福祉法人南相馬市社会福祉協議会(以下社協)のガイドラインに従い活動を行っております。

発災から1週間後の3月24日から中井康博職員を派遣。平時からつながりのある南相馬市市民活動サポートセンター(以下サポセン)から要請があり運営サポートとして活動を開始しました。ウクライナの情勢報道やコロナ禍の報道もあり、今回の災害の報道はほとんどない上、被害が広範囲なため被災した家屋数が発表されるまでに時間がかかり被災状況の全容が分からないままでした。3月25日鹿島区の被災状況の調査に行った際、一面にブルーシートを張った家が広がりその被害の大きさを目の当たりにしました。

シャンティとして、一般社団法人パブリックトラスト(代表 原田淳子氏、以下、パブトラ)の一事業であるサポセンの被災地支援活動の側面支援を決定し、5月11日まで、現地に滞在しました(その後は、出張ベース)。

以下がその報告です。



家の片付け作業



ブルーシートで保護された被災家屋(鹿島区)

## “みなみそうま市民とNPOによる災害支援チーム このゆびとまれ”の立ち上げ・運営支援

南相馬市の最大の被災地である鹿島区において、パブトラが“みなみそうま市民とNPOによる災害支援チーム このゆびとまれ”(以下、ゆびとま)を立ち上げ、シャンティは、そのサポートを行いました。鹿島区は代表の原田淳子さんの地元でもあり、当初は、平時から関係性のある国際NGO オペレーション・ブレッシング・ジャパン(以下OBJ)と被災者への訪問活動、水・米の配布を行っていました。外部支援団体が支援に集まる中受け皿がなかったことから、ゆびとまを立ち上げました。パブトラ、OBJ、シャンティを主な運営団体として多くの団体からのサポートを受けながら活動を始めました。以下がその記録です。

### 【立ち上げの経緯】

3月16日福島県沖地震発災

3月17日水の配布支援と現地調査(訪問活動)の開始

3月28日かしま交流センター(相談室)に拠点を構える。

4月1日ゆびとまの前身チームとして活動を開始

4月4日第1回三者連携会議(南相馬市、鹿島区社協、NPO)

4月5日支援メンバーによる第1回MTG

4月8日“みなみそうま市民とNPOによる災害支援チーム このゆびとまれ”(現在みなみそうま災害支援チームこのゆびとまれ 以下ゆびとま)に名称決定

4月9日～ゆびとまとして活動開始

## 【活動内容】

### 1. 生活支援

南相馬市災害ボランティアセンター(災害ボラセン)が優先的に活動を行う世帯(一人暮らし高齢者世帯、障がい者世帯・ひとり親世帯・経済的に困っている世帯など)から外れたものの、支援すべきニーズが高い家庭を中心に生活支援活動を始めました。その中で福祉的なサポートが必要な世帯については社会福祉協議会への情報共有や地域包括支援センターにつなぐ活動を行いました。継続的な見守りが必要な世帯についてはケアマネージャーなどを中心に寄り添う活動を行ないました。



拠点にて相談を受ける様子

### 2. 入浴支援(入浴チケット配布)

市では、地震による断水等によって、自宅で入浴ができない方を対象に、南相馬市内の入浴施設の無料利用を3月27日まで実施していました。

しかし、ボイラーの故障や浴室自体の損壊により入浴ができず修復まで時間がかかる世帯が続出したため、ゆびとまでは入浴チケット配布を始めました。また、自ら入浴施設に移動することが難しい世帯に対してはタクシーチケットの配布を行い、チケットを渡す際はヒアリングシートに基づいて生活状況などを伺い片付け作業や生活支援に活動をつなげるきっかけとなりました。

入浴チケット  
お渡ししています

令和4年福島県沖地震で被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。  
3月16日の福島県沖地震によって被害を受けた方へのお手伝いをしています。

水道管の破損、タイルの落下等で  
お風呂が使えない方々を対象に  
無料入浴チケットをお渡ししています

お風呂に行く交通手段がない方は、お気軽にご相談ください。

ご希望の方は  
お電話に  
ご連絡ください

お問い合わせ先  
みなみそうま 市民とNPOによる災害支援チーム  
このゆびとまれ  
☎080-4588-0279  
事務所:かしま交流センター内(福島区横手川原186-1)  
メール:2022konoyubitomare@gmail.com

入浴チケットのチラシ

### ○広報の方法

防災メール配信:南相馬市生活環境課より南相馬市全区へ入浴支援情報のメールを配信

南相馬市 HP にて入浴支援案内:

<https://www.city.minamisoma.lg.jp/portal/sections/13/1320/13204/1/18065.html>

### ○入浴支援した家の状況・声

- ・80代男性「地震によってボイラーが故障し、業者がくるまで2か月かかると言われた。」
- ・70代男性「浴室の壁が崩れたままで入れる状態じゃない。」
- ・80代女性「浴槽が割れて水をためることができない。」
- ・70代女性「薪風呂で外壁が割れて煙が入ってくる。外壁の隙間からムカデやアリが入ってくる。」



入浴支援の様子

### 【入浴支援 実績】

4月～7月

対象地域:福島県南相馬市

配布枚数:510枚(シャンティ購入分以外も含む)

配布世帯:延べ58世帯

タクシーチケット:15枚(配布人数:2人)

## 技術系ボランティアのコーディネート

南相馬の市役所、社会福祉協議会、NPOによる三者会議にて地震によって瓦被害を受けた屋根の雨漏りを防ぐために行うブルーシート展張作業や倒れ掛かったブロック塀の撤去など専門技術を必要とする作業(以下技術系案件)のニーズ管理とマッチングを4月9日から5月11日までゆびとまが担うこととなり、多くの専門団体からのサポートを頂き、主担当として活動を行いました。

### 【活動内容】

- ・アウトリーチによるニーズの把握
- ・作業に入る前の現地調査
- ・ニーズマッチング
- ・ニーズ管理と災害ボランティアセンターへの情報共有

中間支援組織であるゆびとまで技術系案件を扱うことにより災害ボランティアセンター業務負担の軽減、技術系案件作業の効率化、作業後の生活支援につながったなど多くのフィードバックがありました。特に地震被害は一般ボランティアで行うことのできる作業には限りがあるため専門技術をもつボランティアの作業負担が多くなる傾向があります。一般ボランティアの対応するニーズと技術系案件を分けることにより、作業効率の向上、ボランティアセンターの強みを生かした支援のサポートにつながるのではないかと思います。

### 【技術ボランティア団体】

- ・カリタス南相馬
  - ・騎馬武者ロックフェスチーム(サボウイズ)
  - ・技術系アライアンスチーム
- (DRTJAPAN、DEFTOKYO、レスキューアシスト、コミサポ広島、PBV、OJ など)

#### 【ゆびとまでのニーズ管理】

4月11日～5月11日  
 マッチング計147件  
 新規ニーズ60件(アウトリーチや来訪)

#### 【民間ボラセンとして被災世帯への訪問支援】

3月24日～7月31日  
 訪問回数 182 回

ゆびとまチラシ



屋根作業の下で生活状況を聞く様子

## サロン活動

技術ボランティアの支援活動によって、住居の当面の確保により一時的問題は解決したものの、その後の生活課題、今後ブルーシート張替えや経済的な問題などが予想されます。そういった人の声を聞くことができる場所として、地域の皆さんが気楽に集まり悩みを話し合うことができる場が必要です。新型コロナウイルス感染症拡大前は、社協管轄のサロンが鹿島区だけでも約20か所ありましたが、現在では、半数以上活動していません。マンパワー部族からアウトリーチで声を拾うことが難しくなっていく中、継続的に相談窓口を設けることのできる体制構築のサポートを行っていくことが重要であり、6月からゆびとまでサロン活動を開始しました。シャンティとしてはサロンの運営サポート、学生ボランティアのコーディネーターを行いました。事業期間は終了しましたが現在もゆびとまサロンは継続して実施されています。

6月ゆびとまチラシ

【ゆびとまでサロン活動】  
 6月1日～7月31日  
 サロンや炊き出し等の活動：29回実施  
 参加者：208人(サロン以外の来訪者含む)

## 現地で聞いた被災された方の声・見えてきた課題

### 【一部損壊の多い被害】

#### 1. 制度による公的支援が少ない

一部損壊の世帯数が多いことから公的支援制度を受けるのはわずかであり、住宅再建にむけて経済的負担が大きいと考えられます。そのため、罹災証明申請を住民も多く、できる限りの資金助成の制度を活用できるよう促す必要がありました。また、高齢者には罹災申請や災害ごみの搬出許可申請など難しい手続きがあり申請の手伝いをする必要がありました。

#### 2. 一般ボランティアができる活動が少ない

一部損壊世帯が多いため、一般ボランティアでできる作業が非常に少なく、基本的に専門的な技術を持った団体の屋根作業やブロック塀、外壁の作業のみになります。そのため雨漏りなど根本的な問題解決には時間がかかります。

### 3. メディアの取り上げが少ない

ウクライナ情勢の影響も強くメディアでの取り上げも少なく外部からの支援も少なく復興には時間がかかることが予想されました。シャンティとして発災直後から情報収集は行っていたものの数字として被災情報はほとんど得ることができず状況を確認することが非常に困難でした。

### 4. 外から被害が見えづらい

一部損壊が多く在宅避難されている方には、福祉的な目線での訪問が必要でした。しかし、東日本大震災を含めて3度の地震で悪徳修理業者による詐欺まがいの訪問に過去合われた方もおり、外部支援団体として生活状況を把握することには工夫が必要でした。

発災から約半年がたった現在でも本格的な屋根修理に至るには時間がかかるため、屋根のシート張替え作業が続いており、本当に復旧に時間がかかります。令和4年福島県沖地震により被災された方々へ心よりお見舞い申し上げますと共に1日も早い復旧をお祈り申し上げます。

今回新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した災害対応となりました。シャンティの派遣職員は、PCR検査で陰性を確認したうえで毎日の健康管理シートの記録をし、感染症対策を行いました。

## 事業実施期間

2022年3月24日～8月16日

## 会計報告

### 【収入】

項目	金額(円)
日本財団からの助成金	2,020,000
合計	2,020,000

### 【費用】

	項目	金額(円)
現地事業 実施経費	旅費交通費	646,218
	活動費	159,865
	雑費	4,402
	職員(派遣スタッフ)人件費	969,467
	一般管理費	240,048
	費用総額	2,020,000

\* 当事業は、主に、「日本財団」様からの助成金と皆様のご支援を受けて実施しました。

発行日:2022年9月1日



公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会  
地球市民事業課  
東京都新宿区大京町31 慈母会館2,3階  
TEL 03-5360-1233  
FAX 03-5360-1220  
URL <https://sva.or.jp/>